

記念祭に参加して

倉真報徳社理事 佐藤 幸子

緋カンナはためく国旗と道歌の碑

もう十二、三年前になるんだ。晴れた日にはビービービー草刈り機で雑木篠竹を刈る音がする。誰だろうと山へ登ってみた。何日も続く。音が大きくて声が届かない。男の人が仕事をしているのが分かった。或る日「あれ宮城さんだネ」私は吃驚した。八十路の爺さんとは思われない姿と労働力「地主さんの好意で、ここを借りられるようになった。よかった。ありがたい。」と又ビービー始められた。雨の日は聞こえなかったが、お日様の下で何百日もか仕事は続いた。宮城さんお年を考えて又怪我をしないようにと祈らずには居られなかった。と開村当時を思い出して参加した。

音もなく寄り添うごとく秋の蝶

集まった人たちは、畑の仲間か、み

んな仲良しで一緒に自然の中ではたらかましようよと気軽な方々、楽しく活動し、天と地に感謝し、お昼のお弁当の一汁の中の野菜の豊富なこと、おいしかったです、ありがたかったです。「ご馳走様」

野には野の風の道あり萩の花

遠州の空の風が山の上は吹いていた。秋の花は咲き、暖かな日だった。花壇の優しい花で心が癒された。會長さんのへの挨拶で将来のビジョンを説明され希望が持て楽しみです。婆さんも参加させて貰って感謝感激です。

記念祭に参加して

茅ヶ崎市 野口 幹夫

「倉馬の里」10周年おめでとうございます。皆さんの人生をかけての努力で、ここまで続けられたこと改めて敬意を表します。久しぶりで見学させていただきました。お社の上から村が一望できると知りました。明るい未来を象徴しているよう

に思いました。またこのお社が「こののまま社」を分祀されたと聞きました。日本の古来の思想、言霊(こゝろたま)の変身で、それも失われた忌部族の神とは、興味津々でした。倉馬の里万歳。

「倉馬の里構想が

うちの温泉で…」

小田原市 剣持 悟

小田原より自家用車を使い家族3人で掛川に向かいました。秋晴れの清々しい風を感じながら倉馬の里に到着すると祝賀会が開催されていました。

生まれ育った村が廃村となってしまうが、それを見事に復活された方のメイン講演には感動致しました。心づくしのおいしいおにぎりと豚汁を頂きながら伊藤さんとお話していると、うちの下田の温泉で、倉馬の里の構想が練られていたことを教えてくれました。縁を感じま

した。

温かいおもてなしと広大な自然に癒され充実した時間を過ごさせて頂きました。美味しい有機茶も送ってくださり本当にありがとうございます。貴村の発展を祈願致します。



「倉馬の里」の風景。